

I 学校の概要

明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト事業

観音寺市立観音寺中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全 校
3 学級 7 4 名	4 学級 1 1 7 名	3 学級 9 3 名	4 学級 1 1 名	1 4 学級 2 9 5 名

○教員数 3 0 名

◆学校の特色

全体としては一定の規範意識をもち行動する生徒が多いものの、近年、コロナ禍における人との関わりの不足の影響、中学生のネット・ゲームの使用時間の増加、物価高騰等を遠因とする家庭の経済状況の悪化などにより、人間関係づくりが困難な生徒や学習習慣が身につかず、生活習慣が乱れている生徒が増加傾向にある。その結果、些細な出来事でも心の中で折り合いがつかず、感情のコントロールができなくなって暴力行為に至ったり、同世代のなかまと共同生活を営む学校そのものになじむことができず、不登校傾向になったりする生徒が増加している。

現在、県教育委員会から S C や S S T を、市教育委員会から S S W を派遣いただきながら、家庭や地域との連携・協力の下、教職員が協働して即応的・継続的生徒指導をきめ細かく行っているところである。

II 研究主題等

研究主題

主体的に取り組み、学び合い高め合う生徒の育成

～ すべての生徒が安心して学べる学校づくりを目指して ～

◆研究主題設定の理由

学校の状況を改善するために、改めて生徒指導体制の見直しを進めるとともに、生徒の自浄作用を高め、自己指導能力を獲得させるためにも常態的・先行的生徒指導の充実を図りたいと考えている。

そのために、学校生活の中心である各教科、道徳、総合的な学習の時間等の授業において、自己存在感や共感的人間関係、自己決定等生徒指導の教育的機能を意識した実践を積み上げたい。また、行事・式典・部活動を通じた「格好いい先輩」を演出したり、課題を有する生徒にも活躍の場を与えたりするなどの工夫によって、成就感や達成感を味わわせたい。これらと並行して、礼儀や美化など集団生活に必要なマナーやアンガーマネジメントの指導を充実させることで、学校に正義の風を醸成し、すべての生徒が安心して学べる学校づくりを目指したいと考え、本研究主題を設定した。

さらに、不登校傾向のある生徒や不登校生徒については、自主的な校内サポートルームの運営や観音寺市教育支援教室との連携、I C T を活用した学習指導等によって、個の状況に応じて安心して学べる場を提供し、社会的な自立と進路選択に向けた支援を展開したい。

また、これらの取組みを教職員や専門スタッフ等チームで行い、効果的に行うのに適した体制づくりの在り方についても研究を進めていきたいと考えている。

◆研究内容及び方法

①いじめ等のない安心して学べる学校づくり

- ・ 「観中委員会取組みカレンダー」を作成し、毎月重点的な取組みを行う委員会を決めて、生徒も教職員もいっしょに活動し、成果を共有することで生徒の自己有用感を高める。
- ・ 体育大会や合唱コンクール等恒例の行事において、生徒が主役となって活躍する場を創出してやり抜かせることで成就感や達成感を味わわせる。このような取組みを計画的に行うことで、学校風土のよりよい変容を図る。

②心の小さなSOSの早期発見・早期対応

- ・ SCと連携してSOSの出し方についての授業やアンガーマネジメントの授業を行う。
- ・ 特別活動としてソーシャルスキルトレーニングを取り入れたり、各教科等の学習においてグループ活動を積極的に行ったりすることで、適切な人間関係づくりの方法を学ばせ、コミュニケーション能力の育成を図る。

③児童生徒が不登校とならない、児童生徒にとって魅力ある学校づくり

- ・ 各教科の授業におけるICTの活用、総合的な学習の時間における教科横断的な学習や探究的な学習、望ましい学習習慣を形成するための取組みなどによって、生徒にとって授業を魅力的なものに改善し、学力の定着を図る。
- ・ すべての教育活動において、生徒一人一人のよさや可能性を見つけ、教職員が時機を逸することなく適切に承認、称賛、励ますことで、確かな信頼関係を築き、生徒や保護者が安心して教職員の指導や支援を受け入れる状態を維持する。
- ・ SSWと連携しながら校内サポートルームを運営し、不登校傾向のある生徒の居場所を確保する。生徒の状況によって市教育支援センターとも連携し、生徒の登校への意欲、教室復帰への意欲を喚起する。

Ⅲ 研究成果の普及方法

学校だよりやホームページ等で、学校の取組みを随時発信しながら次の方法で研究成果を評価する。

- 全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査の質問紙調査の状況
- 毎学期の生徒アンケート調査、保護者へのアンケート調査の状況
- 生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題の発生状況
- 深刻な課題を抱えている特定の生徒の行動分析

また、SC連絡協議会等の場で本校の実践を紹介し、校区内小学校と研究の方向性を共有する。そのうえで得られた知見を、香川の教育づくり発表会において県下の教職員に成果と課題を発表する。